



大学礼拝

Chapel News No.137

第137号 東北学院大学 2016年12月25日

巻頭言



宗教部長
野村 信

「すべての人を照らす神の光」

皆さん、クリスマスおめでとうございませう。この幸いな時に、神様からの御祝福が豊かにありますようにお祈りします。

ところで私たちは、しばしば、「神は見えない」、「神はどこにいるの」と口にしていきます。しかしよく考えてみれば、神は見えないからこそ、どこにでもいてくださると言えるのではないのでしょうか。今、私たちの傍らにいて、祈る時、感謝する時、いつも私たちと一緒にいてくださいます。それは換言すれば、まことの光として、力に満ちた霊として、私たちの傍らにおられます。

光の、霊としての神は、私たちに見えるように現れてくださいました。それがクリスマススの出来事です。幼子イエスこそ、旧約聖書で二千年もの間待たれていた、世界への神の登場です。

主イエスは、公の生涯において、憐み深い神の働きを行われ、尊い福音を宣べ伝え、多くの病を癒し、しかも十字架の死とその

復活によって、人類にかけがえのない、究極の命の救いを示してくださいました。世界はこの光のもとで輝いています。私たちはそのことを聖書から明瞭に示されています。

上記の写真の掲示板の中にあるルカによる福音書二章二九節には、シメオンという老人が幼子イエスを抱き上げて、次のように預言している言葉が出てきます。

主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいませう。

これは万民のために備えられた救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉です。

シメオンは幸いにも生きている内にはつきりと神御自身の現れとしてのイエスを見ました。その幸いは、イスラエルから広がって、異邦人である私たちにまで及び、私たちも幸いなことに主イエス・キリストを、聖書を通して見るのです。そのお方は、今も光として私たちの中で輝き、聖なる霊として私たちに励まし、強め、喜びに満たしてくださいませう。

今年もクリスマスが来しました。光がまぶしい季節です。それは何よりも神の光、神の幸いが世界に満ちているからと言えます。心からこのクリスマスをお祝いしましょう。



「ホワイト・クリスマス」



院長
佐々木 哲夫

静かな雪

大学生の頃、クリスマス・イブ 燭火礼拝に出席し、礼拝後の茶菓付きの懇談会にも参加し、話が弾んで遅くなり教会を辞して外に出てみると、いつの間にか一面雪景色になっていました。しんと降る雪中、一人歩いて家路に就きました。音楽や風景、時には香りまでもが昔の記憶を蘇らせてくれることがあります。温暖化の時代ですが、静かな夜の雪明かりを頼りに雪道を歩くと、イブ燭火礼拝の帰り道を思い出します。

駆けるユキ

純白の雪景色は、世の汚れがすべて払拭されたような清々しさを感じさせてくれます。雨の日にはそのような感触はありません。聖書の詩編記者が「わたしを洗ってください、雪よりも白くなるように」(詩

五一・九)と神に祈りましたが、純白の世界に自分も同化したいとの衝動に駆られるからでしょうか雪の上を駆け回りたくなくなります。小学生になる前から大学院生を終えるまでの長期間、原則毎日散歩に付き合わされた真っ白な毛並みの秋田犬を飼っていました。秋田から届いた雌の子犬の血統書には「白竜号」と記されておりましたが、呼び名はユキです。ユキは雪景色になると尻尾を振りながらやたら駆け回る犬でした。雪が大好きだったので。私が小さい頃は引きずられての散歩でしたが、老犬になってからは私が引つ張つての散歩でした。雪景色が思い出させてくれる一つの記憶です。

寒い雪

シカゴの冬は厳しい。ウインド・チルと呼ばれる風の冷却効果で体感気温摂氏マイナス六〇度の予報が出されることもあります。アパートから大学校舎まで距離のあったシカゴ大学のころは、息で眼鏡と鼻が凍り付く中、遭難しないようになどと思いつつながら氷の雪道を歩きました。顔に痛いほど寒い雪は、余り良い記憶ではありません。そのような雪を仙台では体験しないので、記憶を戻さ

れることは稀です。十一月になると寒い雪が舞うシカゴの街では早々とクリスマス・ソングが流れ、イルミネーションが店や家の窓を綺麗に輝かせます。ヘンデルのメサイヤ演奏会が開かれ、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」(イザヤ九・五)のハレルヤコーラスが響く季節です。それもまた寒い雪と重なる記憶です。

雪のクリスマス

「I'm dreaming of a white Christmas…」とビング・クロスビーが歌った「ホワイト・クリスマス」の曲を聞くと懐かしい雪とクリスマスの記憶が走馬灯の一場面のように蘇ります。皆さんのクリスマスへの記憶はどのようなものでしょうか。今年こそ、教会のクリスマス・イブ燭火礼拝の記憶を加えてもらいたいと思います。ホワイト・クリスマスになると良いですね。



ドイツのクリスマス

大学宗教主任

吉田 新



クリスマスの前の4週間は、待降節(アドベント)と呼ばれています。この時期のドイツは、1年で一番美しい時期です。寒さは厳しいのですが、クリスマスの飾りつけであふれ、街にはクリスマス市が立ちます。クリスマス市では焼きソーセージやグリューワインという砂糖を入れた赤ワインなどが売られます。ですが、家の内に灯す蜜ろうのロウソクのお店は人気のお店です(写真1)。

カトリックの教会堂には「ヴァイナハツクリッペ」と呼ばれるイエス・キリスト誕生の情景を表した置物が堂内に飾られます。「ヴァイナハツ」はドイツ語で「クリスマス」、「クリッペ」は「飼葉桶」を意味します。堂内だけではなく、カトリックの影響が強い地域では街の中心の広場やクリスマス市に人形が飾られたりします(写真2)。飼葉桶に寝かせている幼子イエスを囲んでマリアやヨセフ、東方からの三博士、羊飼いたちが並べられています。それぞれの教会や街、またはそ

の年によって変わる「ヴァイナハツクリッペ」が見られます。なかにはイエスの誕生の場面を現代風にアレンジし、凝った演出をほどこしたものもありますので、それらを見てまわるのも楽しみのひとつです。

幼子イエスの姿を見るたびに「なぜ、神さまはこのような無力な幼児を救い主としてわたしたちに送ったのか」と考えます。聖書には、キリストは「自分を無にして、僕しもべの身分になり、人間と同じ者になられた」(フィリピ2章8節)とあります。

わたしたちがリーダーを求めるとき、わたしたちを力強く引っ張り、指導する姿を思い浮かべます。しかし、聖書が伝えるクリスマスのメッセージは、その逆を示しているように思います。わたしたちのリーダーは自分を無にして、下からわたしたちを支える方です。



1
クリスマス市の蜜ろうのお店



2
ヴァイナハツクリッペ

料理とケーキのクリスマス！

今回は、学生の皆さんのクリスマスの思い出を特集しました。

それぞれにクリスマスの思い出を語ってもらうと、何よりもお母さんの料理がまず思い出されるようだ。その日はいつもより食卓の上は豪華だ。さらに食後にケーキをほおぼる。外は暗く、寒い、家の中は暖かく、笑顔が広がる。高校時代には友だちと「なべ」をつついたのが楽しかったという人もいた。その後は、みんなでゲームに興じる。冬休みも始まって、楽しさは高じてくる。日本の場合、この後やってくるお正月がさらに一家団欒と娯楽の一大イベントとなる。里帰りの兄や姉、日頃顔を合せない遠い親戚が訪ねてきたりもする。子供にとってはこれに「お年玉」が加わり、一日中ゲームに興じていてもこの時だけは許される。この祝祭を準備する親の気持ちは誰でも親になってみないと分からない。こうして一年が終わり、新年がやってくる。

サンタクロースはお父さん！

クリスマスは、何と言ってもサンタクロースのプレゼントの日でもある。小さいころ誰しも、枕元にプレゼントが置いてあった。男の子はゲームやおもちゃ、女の

子は、ぬいぐるみやディズニーなどのキャラクターのついているグッズだ。学生たちの中には、もみの木に欲しいものを書いてぶら下げた人もいる。サンタは確かにそれをもってきた。うれしさと驚きで幼い心は



ときめいた。手紙をサンタに毎年書いていた人もいた。返事が英語で来るのがまた嬉しい。しかし、すぐにサンタクロースはいるのかいなのか、しかも本当は父か母かと言いだした。学生たちの中で、小学校時代に真相を突き止めようと思って、イブの夜に部屋の入口に黒い細い糸を横に何本も張って、そこに鈴をつけた人がいる。夜

中に鈴の音が鳴ったら目を覚まそうと試みた。結果はうまくいかなかったが、その熱心さに一同みな関心した。本人は今でもいると信じている。

サンタクロースはお母さん！



「私の家には煙突もなく、鍵はいつも締めて寝ているのに、サンタさんはどこから入ってくるの？」と母に尋ねると、いつも、「サンタクロースは透明人間なのよ」と母は言っていた。その日は、イブの日。たまたま熱を出して寝ていた。せつかくのイブに布団の中で過ごさなくてはならない。ふと真夜中に目を覚ますと、そこにいたお母さんと目があってしまった。「え？ サンタってお母さん？」と尋ねると、「いやちよっと来ただけ」と言う母親は大きな袋を持っていた。こうして小学校の低学年にして一つの現実を見てしまった。先の手紙を書いていた人も、自分の書いた手紙を家の中で発見した時のショックは小さくならし

MERRY CHRISTMAS





クリスマスあれこれ

クリスマスという時期は、近づくにつれなんとなく期待に胸が弾んでくる。その日は普段行かない納屋の扉を開けたら、以前にももらったゼンマイ仕掛けのサンタクロースのおもちゃが突然動き出した。カタカタと音をたてて動く様子にびっくり仰天。クリスマスを意識している時だからなおさら驚いてしまい、この出来事はしばらく忘れられなかったと。またある学生は、小さいころからクリスマスプレゼントは家の中に隠してあって、宝探しのようにそれを見つけたという習慣だったと話してくれた。親と子が一緒に遊んでゲームをしているように楽しそう



高校のクリスマスが楽しかった！

学生たちの中には、高校がキリスト教主義だった人がいる。中学が公立だったので、高校になってから学校でのクリスマス行事が新鮮だった。クリスマスについての話を礼拝で聞く。イエス・キリストがなぜ誕

生したか、その様子がどんなふうだったか、どれも知らなかったことだ。教室では、その日クリスマスのお祝いがあった。みんなケーキを作ったり、教室でビンゴやゲームをしたり、楽しい時を過ごした。

本院院の中学・高等学校を卒業した一人は、中学になってクリスマスはサンタクロースの日ではなく、イエス・キリストの誕生日であり、サンタクロースとは別なのだということをはじめて知ったと語ってくれた。サンタクロースがこの時期に登場するようになったのは、かなり後の時代なのだ。

クリスマスパーティーの楽しさ

学院大学に入学してからクリスマスの祝い方がいろいろあるのが新鮮だと言う学生もいた。確かに大学クリスマスでは、ヘンデルのメサイアの合唱を聞くことができるし、中には、大学の先生たちがこの時期にゼミ生を何人も家に招いてくれる。いわく、外国ではクリスマスにはどこの家庭でも、友人や知人を招いてクリスマスのパーティー

クリスマスおめでとう！

2016年12月25日



を開くからということだ。この習慣は是非、日本でもはやってほしいものだ。

親の気持ちは複雑！

学生たちの話を聞いている時、白髪の混じる先生が加わってきた。いつの間にか自分の話をし始めた。そこで最後に親の気持ちを紹介しよう。親は、子供にはサンタクロースがいると信じていてほしいということだ。先生は、自分の子供たちに小さいころからサンタクロースはいるものと教えていたが、いつの間にか、子供たちから、「サンタがいると信じているのはお父さんだけだよ」と言われて、愕然とした。なるほど、親は子供にいつまでも夢をもってほしいと願っているのかも知れない。

さて、今年のクリスマスはどんな時だろうか。年を取っても誰でも何かを期待している時期だ。



(執筆者 野村 信)

希望とは “にもかかわらず 愛すること”

～三浦綾子『道ありき』から



三浦綾子記念文学館
特別研究員

もりした たつ え
森 下 辰 衛

きました。女はまた絶望の淵になげこまれました。しかし、一年後現れた三浦光世に愛され励まされた綾子は四年後の1959年、奇蹟的に癒されて結婚、三浦綾子となり、1964年小説『氷点』によって作家となり、以降三十年間、多くの人に勇気と希望を与え神の愛を伝える小説を書きつづけました。夫光世は病弱な妻の為に口述筆記をし、献身的に介護しました。

「お前なんか、どうせだめだよ。もうお前の人生に良いものなんか残ってないよ」「そんなお前に何ができるのか」とあざける声が、心に聞える時はないでしょうか？そんな辛い日には、絶望させようとする声ではなく、聖書に耳を傾けましょう。「見よ。あざける者たち。驚け。そして滅びよ。わたしはおまえたちの時代に一つのことをする。それは、おまえたちにどんなに説明しても、とうてい信じられないほどのことである。」(使徒13章41節)神さまがこう言ってお下さっているのです。ギブスベッドに仰臥する綾子を見た当時の誰が、後の三浦綾子の姿を想像し得たでしょうか？彼女の人生は語っています。奇跡はある。生かされている限り、道はある。ふてくされて反抗的だった綾子を、にもかかわらず愛してくれただけでなく、愛されるに値しない私をにもかかわらず愛してくださる神さまを示しています。

す。あなたを愛してくださる神さまの心には、あなたのための驚くべき計画があるのです。だから、絶望する必要はありません。私たちがすべきことは生きて愛することだけです。

私は十年前、大学教授の椅子を捨ててこの三浦綾子を語る仕事を選びました。定収入ゼロという恐ろしい状況になることが分かっていたにもかかわらず、にもかかわらず信じて、損得勘定を捨てて、バカになる道を選んだのです。神さまは約束されたとおりに、到底信じられないことを十年間し続けてくださいました。苦難は避けられず、挫折も人生には付き物です。しかし、それは登るべき階段です。「にもかかわらず」愛するとき、奇跡が始まります。神さまはいつでも、にもかかわらず愛し、にもかかわらず信じ、にもかかわらず従う「馬鹿」と共に奇跡をなそうと待っておられます。



◆もりした たつえ 森下辰衛氏

- 一九六二(昭和37)年七月生
- 一九八一(昭和56)年三月
- 岡山県立矢掛高校卒業
- 一九八五(昭和60)年三月
- 山口大学人文学部語学
- 文学科国語国文学専攻卒業
- 一九八九(平成元)年三月
- 山口大学大学院人文科学研
- 究科修士課程 フランス語
- 学フランス文学専攻修了
- 一九九二(平成4)年三月
- 山口大学大学院人文科学研
- 究科修士課程 日本語日本
- 文学専攻修了
- 一九九二(平成4)年四月
- 福岡女学院短期大学専任講
- 師(のち助教授)
- 一九九九(平成11年) 福岡女
- 学院大学助教授
- 二〇〇六(平成18)年四月
- 三浦綾子記念文学館特別研
- 究員
- 二〇〇七(平成19)年三月
- 福岡女学院大学助教授退職

主な著書

- 「氷点」解凍(小学館、2014)

敗戦による教科書墨塗りによって大きな挫折と絶望に陥った堀田綾子は、1946年結核を発病。オホーツク海で自殺未遂もしました。幼馴染のクリスチャン前川正は、彼自身も結核に冒されていますが、旭川市郊外の春光台の丘で、自らの足を石で打ちたたきながら、綾子に生きる目的を見出だすようにと諫めます。この前川の姿の背後に、かつて知らなかった光を見た綾子は、女としてではなく、人間として愛してくれたこの人の信するキリストを尋ね求めたいと思い始めます。暗闇の中にうずくまっていた女の魂の中に一筋の光が差し込んできたとき、再生の物語は始まりました。三年後綾子は脊椎力リエスを発症しますが、札幌医大病院のベッドで洗礼を受けます。しかし、その一年半余りのち、前川が逝

きました。女はまた絶望の淵になげこまれました。しかし、一年後現れた三浦光世に愛され励まされた綾子は四年後の1959年、奇蹟的に癒されて結婚、三浦綾子となり、1964年小説『氷点』によって作家となり、以降三十年間、多くの人に勇気と希望を与え神の愛を伝える小説を書きつづけました。夫光世は病弱な妻の為に口述筆記をし、献身的に介護しました。

す。あなたを愛してくださる神さまの心には、あなたのための驚くべき計画があるのです。だから、絶望する必要はありません。私たちがすべきことは生きて愛することだけです。

三浦綾子が伝える 「なくてはならぬもの」



東京 JCF (ジャパニーズ・クリスチャン・
フェローシップ) 牧師
三浦綾子読書会顧問
はせがわ よしみつ
長谷川与志充

皆さんは三浦綾子の作品をお読みに
なったことがありますか？ ある統計
によると三浦綾子は売上数で日本の歴
代作家の第八位、人気度で第七位の
日本を代表する作家です。

彼女の作品の中心的メッセージは、
処女作「氷点」に出て来る「なくてはなら
ぬもの」という一語に集約されるでしょ
う。この「なくてはならぬもの」を明ら
かにするために、三浦綾子は「氷点」に
おいて四人の自殺者を登場させていま
す。実は、彼らの自殺の理由こそ、人
間が生きていくために「なくてはならぬ
もの」を表しているのです。

今日の説教では、その中から二つの
「なくてはならぬもの」を紹介します。ま
ず一つは、「人生の目的」です。

「氷点」の中で海で自殺を試みたある

女性のことが記されていますが、この女
性のモデルは何と三浦綾子自身でした。
詳細は三浦綾子の自伝「道ありき」をお
読みいただきたいのですが、彼女は戦
前、戦中までは「天皇陛下のために生き
死ぬ」という明確な人生の目的を持って
いました。しかし、「敗戦」という出来事
が彼女からその人生の目的を取り去っ
てしまったのです。戦後彼女は代わりの
人生の目的を探し求めますが、なかなか
見つかりません。そんな中虚無的で
いい加減な人生を過ごし、その結果行
き着いたのが「自殺」という行為でした。

幸い助かった彼女は、その後幼馴染
のクリスチャン前川正の生き方と聖書
の教えを通して本当の人生の目的をつ
かんで行きます。それはイエス・キリ
ストが教えられた、「神を愛すること」
と「人を愛すること」でした。(マタイ
二二・三六〜四〇)

三浦綾子がかんだ人生の目的は、彼
女の代表作「塩狩峠」の主人公の言
葉にも表されています。

「ぼくは毎日を神と人のために生きて
いと思う。」

最後にもう一つの「なくてはならぬも
の」をお話ししますが、それは「罪の赦
し」です。

これを表す自殺者は、「氷点」の主人公
である辻口陽子です。彼女は育ての母
から自分の父が殺人犯であると聞いた

ことがきっかけで、自分の中にある「罪」
という大問題に気づきます。そして、「私
の血の中を流れる罪を、ハッキリと「ゆ
るす」と言ってくれる権威あるものがほ
しいのです」と遺書に記し、彼女は自殺
を試みるのです。

私は自らが講師を務めている三浦綾
子読書会である年配の女性と出会いま
した。その方はとても熱心に読書会に
集っておられました。その後ガンにな
り入院されました。そこで私は彼女を
病院に訪問し、聖書が教えている「救い」
についてお話しさせていただいたので
すが、その時彼女はこう言ったのです。

「先生。私は本当に罪深いのです。そ
して、人生の中でたくさん罪を犯して来
ました。こんな私が罪赦していただい
て、天国に入ることなどできるのでしょ
うか？」

私は彼女の言葉を聞いた時、聖書が
「なくてはならぬもの」を教えているこ
とを再認識させられました。それは「キ
リストは私達の罪のために死なれた」と
いうことです。

皆さんはこの二つの「なくてはならぬ
もの」、「人生の目的」と「罪の赦し」を
持っていますか？ 三浦綾子の作品と
その土台となっている聖書は、これら
の「なくてはならぬもの」を私達に伝え
てくれるのです。

◆長谷川与志充氏

はせがわ よしみつ
一九六七(昭和42年)生
一九八五(昭和60)年三月
岩手県立盛岡第一高等学校
卒業

一九八五(昭和60)年四月
東京外国語大学インドシナ
語学科入学
一九八九(平成元年)三月
東京外国語大学インドシナ
語学科卒業

一九八九(平成元年)四月
日本キャンパス・クルセード・
フォー・クライスト入社
一九九二(平成四年)四月
岩手の県民運動推進協議会
就職

一九九三(平成五年)八月
盛岡聖泉キリスト教会牧師
就任
二〇〇一(平成13)年四月
東京ミレニアムチャーチ
(2006年に東京JCFに改
名)牧師就任、三浦綾子読
書会

二〇一一(平成23)年九月
三浦綾子読書会顧問就任
二〇一二(平成24)年六月
クリスチャン都道府県人会
代表就任

主な著書

●ドラマティック・ゴッド―
三浦綾子さんとの出会いか
ら(イーグレープ、2006)

クリスマスのご挨拶

みなさん、クリスマスおめでとうございます！

総合人文学科長 出村みや子



皆さんにとってクリスマスは子供の頃の楽しい思い出と共に記憶されていることでしょうか。大学生になった今、マタイとルカ福音書の伝えるクリスマスの記事を読み比べてみてください。クリスマスは、神の子が人として世の救いのために到来した出来事を伝えているのですから、当然人類に大きな驚きと衝撃をもたらしたことで

しょう。その驚きと当惑を、二つの福音書はそれぞれ男女の視点から伝えていきます。突然の出来事に戸惑い、婚約者のマリヤの身を案じて苦悩するヨセフと、同じく天使の告知に戸惑いながらも、「お言葉通りこの身になりますように」と述べて従順に受け入れたマリヤの物語は、いつの時代にも人々の心を打つものです。クリスマスは、人生において私たちを待ち受ける予想外の出来事に際して、戸惑いつつも愛と信仰をもって受け入れることの幸いを伝えていることを覚えたいと思います。

大学宗教主任 原田 浩司



今年もクリスマスを祝う季節が巡ってきました。日本ではどこもかしこも「メリー・クリスマス！」と陽気な(merry)気持ちでこの時節を過ごします。人はなぜクリスマスになると陽気になるのでしょうか。

特に泉キャンパスで学ぶ一年生の皆さんは、東北学院大学の学生として、はじめてのクリスマスを迎えます。皆さんはこれまでクリスマス

スを楽しんできたと思いますが、そもそもクリスマスにはどんな意味があるのか、キリスト教会では伝統的にクリスマスはどう祝われてきたのか、クリスマスはなぜ喜ばしいのか、なぜクリスマス・ツリーを飾るのか、などなど、今年は本格的な「クリスマス」に思いを巡らせながら過ごしてみたいかがでしょうか。

泉キャンパスでは、近隣に住む市民を招く公開クリスマスが十二月二日(金)に、泉のクリスマス礼拝が十二月十五日(木)に行われます。学生の皆さんも奮って参加し、是非とも今年は本当のクリスマスに触れてください。

〈2016年を振り返って〉

宗教部長 野村 信



学生の皆さんにとって、この一年はどんな一年でしたか。大学一年生にとっては、大きな変化の一年だったでしょう。何よりも大学生になると自分から積極的に取り組まなければならぬからです。アパートで一人暮らしを始めた人はまず朝ごはんを作ることから始めたわけですね。上級生にとっても、身辺でいろいろな出来事があり、さらに心境も変化し、成長しつつあると実感した人も少なくないと思います。

大学の礼拝やキャンパスの宗教活動も活発に行われました。特に聖歌隊に合唱指導の専任の先生が着任したことはとても嬉しいことです。これから学院の合唱が盛んになることを予感します。聖歌隊はもちろん他の音楽サークルに誰でも参加できますから、是非訪ねてみてください。この一年はとても良い一年でした。本当に感謝です。来年も張り切って過ごしましょう。

◆クリスマス礼拝のご案内◆

★大学クリスマス

泉キャンパス：12月15日(木)
10時25分～
土樋キャンパス：12月15日(木)
16時30分～
多賀城キャンパス：12月16日(金)
10時25分～
説教者：東京神学大学准教授 須田 拓氏
ヘンデル・メサイヤ合唱

編集後記

今年も終わりが近づき、クリスマスの季節となりました。この時期は光が嬉しく、暖かい団欒、楽しい会話のはずむ時期です。大いにクリスマスを楽しみ、喜びましょう。

教会は、どこでも12月24日(土)の夜にイブ礼拝が行われます。さらに25日(日)の午前中にクリスマス礼拝が行われます。クリスマスの歌声と喜びに満ちた時です。ちよっと訪ねてみましょう。きっと新しい発見、出会いがあるでしょう。

二〇一六年二月二十五日

東北学院大学宗教部

編集者 野村 信

〒九八〇一八五二一

仙台市青葉区土樋一丁目三番一号